

平成22年4月28日現在

研究種目： 基盤研究 (B)
研究期間： 2007～2010
課題番号： 19402005
研究課題名 (和文) 東南アジアにおける地域コンフリクトの緩和・予防と「共生の知」の創出
研究課題名 (英文) Mitigation and Prevention of Local/Regional Conflict in Quest for Wisdom for Symbiotic Relationship in South East Asia
研究代表者
伊藤 哲司 (ITO TETSUJI)
茨城大学・人文学部・教授
研究者番号： 70250975

研究代表者の専門分野： 複合新領域

科研費の分科・細目： 地域研究・地域研究

キーワード： 東南アジア・地域コンフリクト・共生の知・サステナビリティ学・学際研究

1. 研究計画の概要

本研究では、政治的・宗教的・民族的対立およびそれらが原因と見られる明示的な紛争のみならず、必ずしも顕在化していない、人々に共有された心理的葛藤をも包含する「地域コンフリクト」という概念に注目している。過去に地域コンフリクトを経験した地域において、その記憶が人々のどのような心性を形成しているのか、またそれがどのようなアイデンティティになっているのかを分析することに主眼を置く。このことによって、地域コンフリクトの緩和がどのような「共生の知」につながっていきうるのかを明らかにすることを目的としている。研究代表者を含む8人でフィリピン調査班 (主任:横山)、ベトナム調査班 (主任:伊藤)、インドネシア調査班 (主任:金)、理論班 (主任:木村) を構成し、それぞれ分担しながら調査検討を進めている。

2. 研究の進捗状況

研究計画にそって、フィリピン・ベトナム・インドネシアの各フィールドでの聞き取り調査を、現地の研究者などとも連携し協力を得ながら進めてきた。たとえば、フィリピンでは、フィリピン国軍と反政府武装勢力との紛争で両側に直接関わった希有の人物や紛争激化回避の知恵である「投降」経験者などから聞き書きを重ねるなど、調査を深めた。ベトナムでは、ホーチミン市 (サイゴン) などで元南政府軍の兵士だった人々の見方、また「英雄の母」の称号を持つ女性の現在についての一次資料を得た。インドネシアでは、バリ島のケドガナン村で現地調査を行い、いわゆる「共有地の悲劇」を起こさない協働的

地域ガバナンスによる地域資源管理のあり方を研究した。また、神戸における元ベトナム難民の人々およびその2世・3世が集まっている教会・NGOでも、大学院生の協力を得ながら調査を実施した。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している
(理由)

これまでの研究成果については、学会・研究会等で発表・報告を積み重ねてきている。2009年度については、4月に蓮井と横山が、立教大学での環境・平和研究会で関連の報告を行い、6月には、東京外国語大学で行われた海外学術総括班フォーラムに招かれて伊藤と横山が発表し、多くのコメントと示唆を受けることができた。9月には、台湾・東華大学にて行われたアジア太平洋平和学会 (APPRA) で、蓮井・横山・京樂がひとつのセッションを受け持ち、好評を得た。さらに2月には横山が、フィリピンのシリマン大学での招待講演を行った。さらにいくつかの書籍や論文の形でも成果を形にしている。まだ全体を統括的に議論検討するまでには至っていないが、それは今後行っていく予定である。

4. 今後の研究の推進方策

全体として大きな方針転換の予定はない。これまでの実績を踏まえて、さらに進めていく予定である。2010年度は最終年度となるため、補完的な現地調査を行い、全体的な成果のまとめをしたいと考えている。なお2010年11月に、日本平和学会秋季集会在茨城大学で開催され、研究分担者の蓮井が大会委員

長を務める予定である。伊藤・横山も会員となっているこの学会の集会で、このグループの研究活動も発表できるようにしていく。さらにそれより前の2010年7月に、オーストラリア・シドニーで開かれる国際平和研究会（IPRA）で、伊藤・蓮井・横山が一セッションを担当する予定である。これらを経ての研究総括と同時に、さらにほぼ同じメンバーによる共同研究の継承発展を2011年度以降も図りたいと考えている

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計12件）

① Suadi and M. Nakagawa, 2009. Sharing the Commons: Resolving the Tragedy of the Commons through Collaborative Management of Coastal Commons at Kedonganan Village, Bali. *Kyosei Studies*, 3(1), 263-285. 査読あり

② 京楽真帆子・伊藤哲司・岩佐淳一 2009 ベトナムにおける戦争と女性—反戦運動と「英雄の母」— 人間文化（滋賀県立大学）, 25, 15-25. 査読なし

③ 伊藤哲司・岩佐淳一・京楽真帆子 2009 聞き書きノート：ベトナム・フエの元反戦運動家たち 人文コミュニケーション学科論集（茨城大学人文学部紀要）, 7, 21-44. 査読なし

④ 蓮井誠一郎・伊藤哲司・木村競・京楽真帆子 2009 「地域コンフリクトの緩和」を理解する枠組み 社会科学論集（茨城大学人文学部紀要）, 4, 111-126. 査読なし

〔学会発表〕（計3件）

① Yokoyama Masaki, Hasui Seiichiro, & Kyoraku Mahoko. September 12th 2009. Mitigation and Prevention of Local/Regional Conflict in Quest for Wisdom for Symbiotic Relationship in South East Asia. Asia-Pacific Peace Research Association Conference (APPRA). College of Indigenous Studies, National Dong Hwa University

〔図書〕（計9件）

① 横山正樹 2009 環境的平和の追求 君島東彦編 平和学を学ぶ人のために 世界思想社, pp. 73-90

〔その他〕

<http://info.ibaraki.ac.jp/scripts/websearch/index.htm>